



おらほの
自慢っこ

シリーズ 9

来てけれ! 由利本荘市

由利本荘市農林水産部
遠藤 晃

桑ノ木台湿原



鳥海山3合目付近に位置する桑ノ木台湿原では、鳥海山を望みながらのトレッキングを楽しめ、6月上旬には白い小さな綿帽子を茎の先につけたワタスゲや、オレンジ色の花をつけたレンゲツツジが群生し、草花が生えている下の地面はコケにおおわれています。

湿原では、ほかに青紫色の花をつけるエゾリンドウ、真っ白な姿を見せるミスバショウといった草花やミスゴケなどの植物が生息し、山野草の豊かな色あいが楽しめるトレッキングコースです。

法体の滝



秋田県の名勝及び天然記念物に指定され、「日本の滝百選」にも選ばれた流長100m、落差57mの大滝です。鳥海山の雪解け水を集めながら、その山に向かい合って落ちる滝は、全国でも珍しいと言われてます。滝を間近に見られる法体園地は、新緑の春から紅葉の秋までキャンプやなべっこを楽しむことができます。

本荘マリーナ海水浴場



鳥海山を望める海水浴場で、「日本の水浴場88選」に認定されています。シーズンには、多くの海水浴客が訪れ、数多くのヨットが波間に浮かぶ光景が見られます。

由利本荘「ひな街道」【2月～3月】



3月3日は「ひな祭り」。古くは、本荘藩の古雪港と対岸の亀田藩の石脇港には北前船が寄港したため、本市には当時の武家・商家に伝えられたおひな様が、今も多くの残されています。毎年2月から3月には市内各地域に根差すひな人形を展示する「由利本荘ひな街道」を開催しています。

由利本荘「春の花巡り」【4月～5月】



「さくら百景の街」由利本荘市で開催される「由利本荘春の花巡り」は、市内の公園や道の駅で桜、菜の花、黄桜、つつじを楽しむイベントです。

期間中は、「桜・菜の花まつり」、「本荘さくらまつり」、「本荘つつじまつり」、「黄桜まつり」、「鳥海高原菜の花まつり」の5つの祭りが由利本荘市内で開催され、期間中は、抽選で素敵な賞品が当たるスタンプリナーなどの催しがおこなわれます。

平根地区園芸メガ団地



平根地区園芸メガ団地は、平成27年度より県の園芸メガ団地整備事業を活用して由利本荘市鳥海地域に整備された大規模園芸団地です。

事業主体の農事組合法人平根ファームは、農地集積加速化基盤整備事業に併せて設立されメガ団地内での「リンドウ」「小ギク」「アスパラ」の栽培に加え、稲作と酒米の大規模経営に地域ぐるみで取り組んでいます。



久米岡地区・佐々木北涯について



▲久米岡地区現在

三種町土地改良区は、秋田県北西部に位置する三種町の西側で、北は能代市、南は大潟村・八郎潟町に接しており、大半の区域は旧八竜町で東側に旧山本町の二ツ森地区と泉八日地区が一体となった地域です。**主な水源は三種川（2級）と鶴川川（2級）であり、その他にもため池に依存している平坦な穀倉地帯であります。**今回は当管内久米岡地区のほ場整備事業と当地区に携った偉人である久米岡集落出身の俳人「佐々木北涯（ほくがいはい）」について紹介したいと思います。**久米岡地区は三種川と東部承水路の合流地点に東西に展開する地区面積約120ヘクタールの団地で、一枚10アール程度の狭小な不整形の区画であり、用排水兼用の土水路で農道も殆どなく、人力による運搬を余儀なくされていきました。**以前から受益者に認識され、事業化に向けた話し合いは長く続いておりましたが、事業

費の負担が困難な理由から、なかなか事業に踏み切れない状態でした。しかし、近年の大型農業機械による農作業体系に全く適合しなくなってきたことや主水源のひとつである揚水機の老朽化を背景に、関係者による度重なる熱心な話し合いの末、この大計画に踏み切ることになりました。その際、関係機関の絶大なるご指導とご協力により、**平成6年度、県営担い手育成基盤整備事業として採択されるところとなり、1ヘクタール以上の大区画を80%以上とする区画整理、幹支線農道の整備、用水路のパイプライン化、排水路の装工、湧水処理など農地の総合的な整備とともに担い手農家への農地集積を図り、安定した農業生産の基礎が確立しました。**

次に佐々木北涯について紹介します。**北涯（1866年～1918年）は、秋田県を代表する俳人です。**江戸時代の慶応2年（1866年）、鶴川地域の久米岡集落で生まれ、名は久之助と言います。祖父・父ともに俳諧の宗匠で、幼い時より俳句の手ほどきを受けました。明治30年（1897年）、北涯から指導を受けた能代市の俳人・島田五空らと「北斗吟社（ほくとぎんしゃ）」を結成し、機関誌「北斗」を発行しました。その後、秋田市河辺出身の俳人・石井露月も「北斗吟社」に参加したことで「北斗」は「俳星」と名を変えた俳句雑誌となり、平成27年（2015年）まで発行されました。北涯は「俳星」を通じて正岡子規とも交流があり、松山の「子規記念館」にある「日本俳句結社パネル」には北涯の名も記されています。

北涯は身分の隔てなく俳句の楽しさを地域に伝えるため、地域の子供たちを集めて句会（芋の子会）を開催する活動もしていました。北涯は県会議員を4期務め、私財を投げ打って久米岡集落の開墾事業に貢献し、大正7年（1918年）、53歳でその生涯を閉じました。

久米岡は地震で一夜のうちに湖が隆起して陸地が出来たと言われています。当時の八郎湖は遠浅で葦が生えて荒地でありました。北涯の家は開墾地を持っている自作農で人を頼んで耕作していました集落のほとんどの人達は不在地主の小作人で、生活は苦しくなるばかりでありました。そうした中、北涯は一大決心をしました。それは集落の人達の暮らしを良くするためには八郎潟の葦の生えていると遠浅の水面を皆んなで力を合わせて開墾し、開墾した農地は共同で管理運営しようというものでありました。明治26年（1893）に北涯が主導して、久米岡部落財産造営の目的で悲願だった「湖岸開墾予約許可」を得ました。

こうして北涯は集落の人達と葦を植え、舟で土を運んだりしながら寝食を共に開墾をおこなったのであります。

開墾の方法は先ず、湖水をせき止めるために遠浅を目安に葦の根株を運んで植えます。そうすると今ある田と遠浅の堰き止められた所までは何もない大堰が出来ます。その大堰の部分の中川と呼んで開墾地として、毎年葦を植え舟で砂を運んで少しずつ開墾していく方法です。もう一つの方法は、夏の間は潟の浅瀬から舟で砂を運んで貯めて置いて、冬に氷の上にその砂を運び、春に氷が解けて砂が沈んで少しずつ田圃になっていくという方法です。いずれの方法もまさに牛歩ごとく、気の遠くなるほどの年月と苦勞の連続だったので、若いうちに、腰が曲がってしまう者も多かったのであります。

こうして、「湖岸開墾予約許可」を受けて9年間、集落民は苦勞が実を結ぶことを夢見て、一心不乱に頑張ってきたのであります。

現在は1ha大区画の汎用農地が広がる地帯に生まれ変わり、この農地を今後いかに収益性の高いものに代え豊かな地域社会に変えることが偉業を成し遂げた北涯に対する私ども関係者の責務であると感じた次第です。



▲北涯頌徳碑



▲久米岡地区竣工碑



▲久米岡揚水機

「随想」

シリーズ⑱

「想い」



内越土地改良区

斉藤 理枝子

原稿依頼を頂き、改めて「随想」の意味を調べてみた。

折りにふれて思うこと。また、それらを書きまとめた文章。

二十三歳で土地改良区に就職し、あと数年で退職を迎えようとしている。

土地改良区とは何なのか、どんなことをするのか、近所でありながら事務所の存在もわからず、就職して初めて知ったのである。日の当たらない暗くて寒い事務所に職員は二人、しかも周りに若い人はいないという事も。

当時は、家と近所にある事務所との往復がいやで、しかも、何かとお酒の飲み会が多く、準備から片付けと大変だし、近所であるがゆえに色々な裏側が見えてきて、苦痛で辞めたいと思ったことも数知れず、葛藤の繰り返しだった。とはいえ籠の中の鳥なのだ。

しかし、子育てをしていく上で職場が近いということに助けられ、どんなに恵まれていたか、そして地域との関わりをもてる事の大切さを実感した。

年齢を重ねて初めて知る様々な事があるのだ。親は、子供がいくつになってもどこにいても心配なもの。

娘は東京で就職している。私が土地改良区に勤めた年齢だ。

毎日が忙しく終電に乗れない日もある。いくつもの壁に突き当たる。

誰の前にも壁はあり、跳ね返されながらも、立ち上がって闘いを挑むのだ。

ふるさと鳥海山のように凜としていよう。きつと明るい明日が待っている！

そう願わずにはられない。



秋田の土地改良496号のについてお詫びと訂正

7月25日発行の秋田の土地改良496号について、掲載内容に誤りがありました。

訂正箇所は下記のとおりです。ここに訂正し、お詫び申し上げます。

4ページ：由利支部の掲載写真が山本支部の写真になっておりました。

9ページ：秋田県土地改良事業団体職員会「第57回通常総会」の記事にて、優良会員表彰に掲載漏れがありました。

誤：掲載無し

正：高橋 陽助（秋田県雄物川筋土地改良区）

関係者各位および読者の皆様には、大変なご迷惑をお掛けいたしましたことを謹んでお詫び申し上げます。

連 合 会 日 誌

| | | |
|--------|----------------------------|---------|
| 11月27日 | 仙北支部職員講習会 | 大仙市 |
| 11月28日 | 仙北支部役員講習会(～29日) | 仙北市 |
| 11月30日 | 由利支部役員講習会 | 由利本荘市 |
| 12月1日 | 秋田支部職員講習会 | 秋田市 |
| 12月7日 | 山本支部役員講習会 | 大潟村 |
| 12月15日 | 第3回正副会長会議 | 本会役員室 |
| 12月22日 | 第5回監事会 | 本会第3会議室 |
| 12月22日 | 第3回理事会 | 本会第1会議室 |
| 1月18日 | 平成29年度土地改良区体制強化事業統合整備推進研修会 | 秋田市 |

12月29日～1月3日 年末年始の休業



鷺舞

水土里レポーター：飯田川土地改良区
山内 忍

潟上市飯田川地区では毎年8月の第1日曜日に鷺舞まつりが開催されます。

まつりで披露される「鷺舞」は、寛文4年に下虻川神明社が建立された折り、二代目藩主佐竹義隆公の御前で舞われたものを、昭和59年に青年たちが復活させたのが始まりのようです。

かつての耕起～代掻き～田植え等の春作業風景や、水田に降り立った鷺が農民に追い払われ飛び立つ様子を囃子と演舞で表現しています。

また、幼稚園児によるかわいらしい「孫鷺舞」や小学校女子児童による「子鷺舞」(群舞)も目を惹きます。

機会がございましたら昔の農作業風景を観にきてはいかがでしょうか？



平成29年秋の叙勲 受章者発表

平成29年秋の叙勲が、11月3日に発表され、本会会員より三種町浜口土地改良区の牧野秀孝理事長が受章されました。誠におめでとうございます。

旭日単光章(土地改良事業功労)



牧野 秀孝

・三種町浜口土地改良区 理事長

会員だより

新理事長就任のお知らせ

次の方が新たに理事長に就任されました。

○鳥海町笹子土地改良区(H29.9.1)

理事長 高橋 豊昭

新市長就任のお知らせ

次の方が新たににかほ市長となりました。

○にかほ市(H29.11.13)

市長 市川 雄次

リレー11 感想文



管内の土地改良区や地域の特徴ほか、様々な記事や写真が満載で勉強になります。

毎号、届くのを楽しみにしています。

大館市二井田真中土地改良区：
会計主任 菅原 恵里子

編集 後記

今回の秋号は昨年同様、行事をタイムリーで紹介するため11月発行となりました。この会報誌が出る頃には、長い冬の入り口に居る頃かと思えます。(もしや、もう雪が降っていたり…)私の出身は横手市で、学生の時分には豪雪二モマケズ、吹雪二モマケズ、の精神で学校に通っておりました。厳しい冬の思い出もありますが、雪化粧した山々を見て深い郷愁にかられる時には、やはり雪とは綺麗なものだ、故郷の景色は美しいものだ、しみじみ思います。長く厳しい冬にあっても、その中で自然の美しさを感じる心を忘れずに過ごしたいですね。

(事業調整センター◆湯川)

